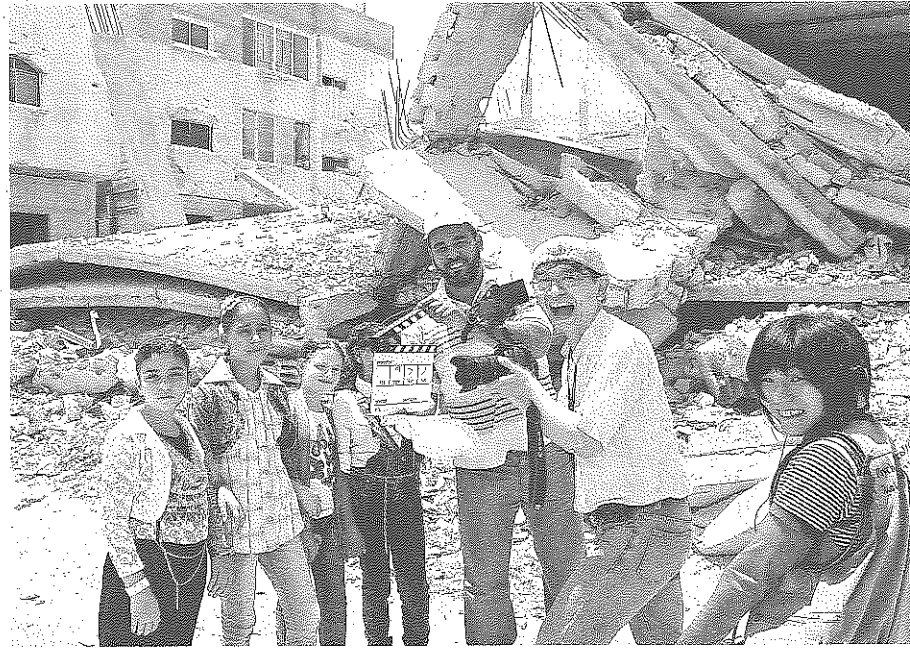


地域で 海外で 命を守る

第48回医療功労賞 中央表彰者の10人

〈海外部門〉

桑山 紀彦 57 医師



パレスチナ自治区のガザ地区。がれきが残る街で、映画を撮影する桑山さん(右から2人目。桑山さん提供)

地域の医療や福祉、難病患者や海外医療の支援に尽力した人を表彰する第48回医療功労賞(読売新聞社主催、厚生労働省、日本テレビ放送網後援、損保ジャパン日本興亜協賛)の中央表彰者10人が決まった。国内部門7人と海外部門3人の横顔を紹介する。(敬称略)

紛争、災害 子どもの心支える

◇中央選考委員
永井良三 (自治医科大学長)
福島靖正 (国立保健医療科学院長)
五十嵐隆 (国立成育医療研究センター理事長)

尾身 茂 (地域医療機能推進機構理
石井則久 (国立療養所多磨全生園長
小山眞理子 (日本赤十字広島看護大学
鈴木俊彦 (厚生労働事務次官)
吉田 学 (厚生労働省医政局長)
宮崎雅則 (厚生労働省健康局長)

パレスチナ自治区などで活動を続けてきた。「心の傷と向き合う子どもの存在を知ってほしい」と語る。精神科医として経験を積み、1994年、ノルウェーに留学。トラウマ(心的外傷)を抱えた人を支える心理社会的ケアを学んだ。主宰するNPO法人「地球のステージ」で2003年から、紛争が続くパレスチナ自治区で活動。外務省の資金援助で、今年に2、3回赴き、現地スタッフと連携して年約240人の子どもの支援をしている。

「心の深い傷は、時間がたっても、触れずにそっとしておいても治らない。憎しみだけが残る。つらい体験に向かい合い、自分の中に取り込むことで初めて前を向ける」。17歳になった女の子は、宇宙飛行士になる夢を持つまでに元気になった。

11年の東日本大震災では、NPOの拠点があった宮城県名取市のクリニックが被災した。救護活動をしながら、3か月後には同市閉上地区で活動を始め、55人の子どもたちが体験を絵や音楽で表現するのに寄り添った。

18年からは、南スーダン難民が押し寄せるウガンダ北部で活動を始めた。神奈川県海老名市のクリニックでは、不登校児らのケアにあたる。

〈パレスチナ自治区〉